

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2018/06 中期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★講習の意義を追求しよう！

第1回定期考査が終わり、ホッと一息のことと思います。しかし、そこは湖陵高校の宿命、「受験勉強」です。1・2年生はいよいよ今週末から土曜講習がスタートします。また、3年生も北大講習が再開されます。

ここで、皆さんには考えてもらいたい。講習って何のためにやるのでしょうか？間違えなくやりたくない事柄の典型例。でもやらねばならない。今回は講習の意義って何だろう、を我々教職員と一緒に考えてみましょう。教職員を代表して進路指導部の先生方に熱い思いを語っていただきました。合わせて進路指導部の先生方の簡単な紹介もします。大切なのは、講習は先生方の思いが込められたものであること、そして全教職員の思いは一つであることを忘れないでほしい。

「志を高く落ち、易きに流れない」生徒だけでなく、我々教職員も一緒ですから。

元島先生（数学 3年1組担任 湖陵9年目 バトミントン部顧問）

普通の考え方かもしれませんが、湖陵高校での講習は一人でも多くの生徒が志望校に合格するための実力をつけてもらうために実施しています。そして、講習を実施可能な時期を調整し、部活動なども自粛し学校全体として取り組まれています。

私の担当教科である数学の場合を例にお話をします。3年間の講習で扱える問題やテーマの数には限りがあります。そのため、より効果的に学習できそうな問題の精選に努めています。また、複数の大学の入試問題に同じような問題があれば、名前を聞いたことない、どこにあるのかよくわからないような大学ではなく、皆さんに馴染みのある大学の問題を採用するようにしています。地方の国立大学と有名私大の問題を比較するときにはかなり悩んでいます。皆さんが意欲をもって問題に取り組み、やりごたえを感じてもらうことができたらし、問題選びも自ずと真剣になってしまうものです。また、皆さんの目にする問題は数百題もの問題の中から選ばれているものなんです。たとえ1年生のテキストであっても、3年生になってから復習する価値のあるものであってほしいと願っています。さらに、テキストだけでは大学入試はなかなか突破できないので、様々なテーマを盛り込んだ補充プリントなども活用して、実力を高めてもらえたらと期待しています。これらのことは、講習に限らず、日頃の授業や添削指導などの場面でも同様です。

各講習の学習内容は、授業で習い、定期考査に向けて勉強し、ある程度下地が整ってからさらに高いレベルの問題に対応できるようにと編成されています。また、大学入試の傾向や湖陵生の受けた模擬試験の結果などから重点的に扱うテーマなどが決定されています。

講習について触れる機会なので、講習の波及効果についても述べたいと思います。各学校の進学実績等は年によって変化します。その要因は様々ですが、その学年全体の雰囲気や環境、そして人によるところがあるのではないと思います。一人でも多くの生徒が進路目標を達成させるために、さらにはその状況を維持していくためにどのようなことをしていけばよいのかを考えてみましょう。

当たり前のように「勉強すればよい」という答えが返ってくることでしょう。でも、本当にやれるのか？やっているのか？「勉強は嫌いじゃないけど、なかなか勉強に向かえないんです…」では、志望校に入学することはできません。このような状況を打破し、皆さんを成長させ、自然と勉強に向かわせてくれるものに、湖陵高校で過ごす環境や時間がなり得るの

です。このことはテストの成績などに関わらず全員にもたらされるものであるはずですが。今は志望校のレベルに少し届かなくても、そこを乗り越えるだけの力を与えてくれるかもしれません。まわりが全然勉強しないような環境になってしまつては、志がいくら高くても、勉強の手も緩んでしまうのではないのでしょうか。

講習では普通の授業とは違った緊張感のある時間が流れているように感じます。このような時間を湖陵生が、さらには湖陵高校全体がより多く共有できたのなら、テストの成績だけではなく部活動や行事も含めて皆さんの高校生活に様々なよい変化を起こしてくれるのではないかと想像してしまいます。

一人ひとりが目標に向かってやれることを頑張ってみる雰囲気に包まれ、お互いを認め合い、ともに学び合えるような、今以上に素敵な学校になっていくのではないかと思います。都会のような整った環境にない釧路では、このようなことも必要になってくるのではないかと感じています。

知的で活力に満ちた環境で3年間を過ごすことができたのなら、きっと皆さんの将来がさらに希望に満ちたものになるはずですが。
ガンバレ、湖陵生。応援しています。

一瀬先生（国語・書道 1年2組副担任 湖陵9年目 書道部・弓道部顧問 進路室常駐）

私が通っていた高校では、大学受験に向けての講習は1～2年生の時にはほとんどなかったのですが、早いうちから受験に向かう準備ができる環境にあることをうらやましく思うとともに、それを活用しない人がいるのは本当にもったいないと思っています。

先生方は、入試を見据えたくら、この時期に何が必要なのかを考えて、講習の準備をしています。「自分で必要なことは自分でわかるよ！」と思っている人もいるでしょうが、たくさん受験生を見て来た先生方は、まだ大学受験をしていない皆さんには見えない様々なことを知っています。もちろん授業でも必要なことを伝えていますが、授業とは違った切り口で、受験に向けて必要なことを伝えるのが講習です。

湖陵生の皆さんは、毎日たくさんやる事があって忙しいと思います。だからこそ、効率的に時間を使う上でも、講習で知識や情報を得ることが大切です。一緒に頑張りましょう！

西原先生（国語 3年5組副担任 湖陵3年目 書道部顧問 進路室常駐）

昨年の三年生の北大講習では、みんなが黒板にそれぞれの解答を書いて互いの解答の良いところを学んだり、みんなと話ながらよりよい解答に作り上げている姿が印象的でした。教育大の講習でも互いに予想問題をつくったり、情報交換をしていました。みんな辛いですが、どんなときも励まし合って毎日受講していました。素晴らしいなと思いました。

私自身も講習はその場にいる人みんなで創りあげていくものだと感じています。来たり来なかったりする人は情報も中途半端になるし、その場を構成するメンバーとしても中途半端な存在になるのではないかと思います。みんなで励まし合う本当のメンバーになれないのです。その人間関係も急につくられるのではなく、1年や2年のときから、ずっと継続の中にあると思います。

また、どんなに優秀な人間も一人で集めることができる情報は限られていると思います。だから、私自身も説明会や勉強会は極力参加するようにしています。目の前の片付けなければならぬ仕事もあります。でも、毎回踏みとどまって参加します。そして、講習などでみなさんに還元できるように一生懸命頑張りたくです。みなさんも一緒に頑張りましょう。

田中先生（英語 2年4組担任 湖陵4年目 応援団・女子バスケ部顧問 湖陵卒業生）
～君たちの進路実現のために～

湖陵高校では「土曜講習」や「長期休業中の講習」、また「平常日講習」などがあります。こちらは授業とは別のアプローチで、主に受験に必要な学力養成を目的として実施されるものです。大

学受験は高校受験とは全くの別物で、君たちの想像以上に大変厳しいものです。授業や日常の家庭学習だけでは十分ではないのです。それを埋めるのが「講習」です。大学合格を目指す人は必ず全ての機会に受講してください。

君たちの中には近隣他校と比べて、湖陵の先生が「勉強しなさい」と言い過ぎる…などと考える人がいるかも知れません。しかしそれは間違いです。大学受験は全国大会です。湖陵生は他校生(全国の進学校の生徒)と比べると、「求められている学習量」が多いとは言えません。そもそも釧根地域では進学校と呼ばれていますが、実は平均的なごく普通の高校に過ぎません。北海道内でも、道央圏などの多くの高校生から見れば、湖陵は「名前は聞いたことがある」という感じの学校です。全国的に見れば無名校です。そんな普通の高校生が全国相手に戦うにはそれ相当の覚悟が必要です。

先生方は3年間の見通しを持って、計画的に授業や課題、そして講習などを考えて君たちに提示していきます。それら全てを含めて湖陵高校の教科指導であり、進路指導なのです。一緒に頑張りましょう。

秋保先生(数学 3年3組担任 湖陵5年目 サッカー一部顧問 進路室常駐)

昔は土曜日にも授業があり(自分はこの世代の人間)、月2回の土曜週休、今では完全週休2日制に変わりましたが、高校までの学習内容は大きく減ってはいません。学習内容を未消化のままで小・中を終えるためか、「この年代で、このことも知らないのか?経験していないのか?」が多くなっている……

湖陵高校で実施される講習の目的は極めて明確で、授業とは別の切り口で、受験に必要な学力養成を目的として実施されるものです。湖陵生が目指す進路は、部活でいうところの「全国大会」の学校が多く、すべての国公立大学や有名私大の入試は、入賞の最低ラインの差こそあれ「全国大会」です。

生まれながらの天才は、おそらく湖陵生にほとんど存在しないでしょう。中学校までは勉強しなくても何とかなっていたから、高校でも勉強しなくても大丈夫という変な自信はいつたどこから来るのでしょうか。また、「自分でできる」、「自分でやってみたい」と言っている生徒に限って、自分ひとりで計画を立てて、確実に実行し、成果を上げた生徒を残念ながら見た記憶がありません。

未来ある若者たちへ
悲しいかな 勉強は字の如く「勉を強いる」もの、学習は「学問を習う」ものです。私たちに考えよ、考えよと言われても、そもそも考えるための知識が足りなくて困っています。

授業時間の割に量の多い高校までの学習には、効率化で対処できる部分が少々あり、最後には経験した量で決まってしまう部分が大半であると思います。講習は、湖陵生のために内容を設定されている点で効率的、経験を増やす点において有効であると考えます。

宮澤謙輔先生(数学 1年1組担任 湖陵3年目 剣道部顧問)

講習には2つの意味合いがあると思います。
1つ目は、「上級学校進学に向けた学習をする」ということ。
入試問題となると、「何を手掛かりに解けばよいかわからない」という状態に陥ります。微分の問題だと思っていたら、実は2次関数の問題だったとか。時制の問題だと思っていたら、関係代名詞の問題だったとか。単元にとらわれた“タテ”の学習ばかりしていると、“何に注目するのか”というところが弱くなってしまいます。そこで、普段の授業では扱いにくい、“ヨコ”の考え方を意識した学習が大切です。その対策の1つが講習であると思います。これは、特に学年が上がっていくにつれてその度合いが高くなっていきます。

講習の中でまったく新しい内容を講習で習うということはおそらく少ないと思います。ですが、必ず新しい発見がそこにあるはずです。学んだことをいろいろなことに結び付けて蓄積していくことが大切です。講習にはそんな役目があるのではないのでしょうか。

2つ目は「変化をつける」ということです。

多くの人が「より良くなりたい」という欲求をもって生きています。そして多くの湖陵生が「点数を伸ばしたい」と思っているはずですが、しかし、思っているだけでは変わりません。「心変われば…」という言葉をよく目にすることがありますが、心だけ変わっても、行動が変わらなければ絶対に結果は変わりません。

授業とは違うメンバー・教室・講師・テキストで学ぶことで、これまで気づけなかったことに気づくチャンスが生まれます。なかなか自分を変えられないという人こそ、講習を学習の方向性を見直す1つのきっかけにしてみたいと思います。

講習は生徒の皆さんと担当する講師の先生方で作り上げていくものです。ネットではたくさんの授業動画が作られていますが、講習にはそこにはない“温度”があります(もちろん授業動画にも多くのメリットがあります)。その日その場にいなければ得られないものが確かにあるはずですが、1人でも多くの人が講習を通して成長し、夢を叶えていくことを心から願っています。お互いに頑張りましょう!

三坂先生(英語 2年5組担任 湖陵3年目 テニス部顧問 湖陵卒業生)

少し意地悪なことを言いますが、決まって講習を受講しない人を見ると、「進学を希望しているのに、なんで講習を取らないの?皆が講習を受講している間、何をするつもりなの?寝るの?それとも講習をとらなくていいほど頭がいいの?」と怒ってしまいます。なぜなら、私が湖陵在学中に講習を受けていなかったのは、進学を希望していない人か飛び抜けて優秀な人だったからです。

私の友人は講習を取ってなくても学校に来て、皆が講習を受けている間自習室で勉強していました。私が勉強では追いつけない友人でした。そうやって自分でできるなら、良いのです。でも自力でそこまで這い上がれない私は、授業や自習だけでは確実に勉強量が足りず、土曜講習、夏期講習、平常講習、あらゆる講習を、開講される全教科取りました。勉強合宿にも参加しました。人が解いたことがあって、自分が解いたことがない問題があるのが嫌でした。そこで差をつけられないように、もしくは人に差をつけられるように、受験勉強に取り組みました。

講習では、授業で学習済みの基礎基本について復習ができるだけではなく、分野やレベル別で問題を解くコツやポイントを知ることができます。「ここが大事だよ」「こんな引っかけ問題がよくあるよ」と教えてもらえるなんて、お得ではありませんか?逆に、自分だけそれを知らなくて、大丈夫ですか?「できること全部やっておけばよかった…」と皆が後悔しないように、学校でサポートする気は満々です。一緒に頑張りましょう!

牧井先生(数学 2年6組副担任 湖陵1年目 VOK・山岳部顧問)

新年度になり、やる気が高まった生徒から聞かれた1番多い質問は「何を勉強すればいいですか?」でした。

勉強する上でもっとも重要なのが、「自分が何をやるべきかを理解すること」です。ただがむしやりに頑張っても思ったような成果は得にくいものです。しかし、自分自身で自分がやるべきことをちゃんと把握するのは難しいことです。

講習ではレベルごとに今やるべきことを扱います。講習では、受験に向けてより重要な内容、現時点で習得しておくべき内容に焦点を絞って扱います。得意科目、不得意科目問わず自分の学力をもう1段上げるために講習を活用しましょう。

一昨年、昨年と新聞局が発行している湖陵タイムズにおいて講習に対する「やりたくない、何でする必要があるの、任意なのになぜ強制されるの?」などなどさまざまな意見が多々ありました。

この春、めでたく国公立大学に合格し、その報告を資に進路室に来室した時、その子は言いました。「確かに講習はイヤでした。でも、合格するためにはやっぱり必要なんです。」毎年、3年生は「英単語をもっと覚えなさい」と言います。しかし、単語は日々の授業で小テストを行っています。どの学年も8月下旬に行われる統一学校説明会に向けて大学調べをしています。しかし、この大学の傾斜配点は?と聞くと、わからないと言う子がいます。

日々取り組んでいる授業や部活動、そして講習は「自ら主体的に取り組んでいこう!」という意欲が必要です。自分のためにです。今後の湖陵生の取り組みに期待しています。